



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第三八九号〕

雨水うすい

二月十九日

御神楽百五十周年

二月の朔日参り。少し徳をした気持ちになりました。この日、伊勢神宮で御神楽が始って百五十周年を祝う舞楽が公開されたからです。内宮の参集殿の舞台では、神宮専属の楽人たちが奏でる雅楽の音色が響き、十二単姿の舞女や赤い面をつけた舞人が厳かに舞を披露しました。

意外に思うかもしれませんが、お伊勢参りの盛んな江戸時代、人々は内宮前や外宮前にある御師の邸宅で御神楽を挙げていました。御師は伊勢講の人々を宿泊させ、お参りの案内をするだけでなく、大きな御師邸には神楽殿も設け、そこでお祓いや御神楽を行っていたのです。しかし、明治四年の神宮改革により、御師制度は廃絶となりました。そのため、明治五年七月に内宮に祈祷所と神宮の御札を授ける大麻授与所が創設されました。そして、当時の宮内省の楽部より指導を受け、翌六年の二月一日から御神楽が行われるようになったのです。

公開舞楽のなかでも、目を引いたのが、舞女四人による「萬代舞」です。十二単に長い裳を引き、頭には山桜の花飾りの天冠、手には檢扇を持つ雅な装束。その姿で舞う姿は、冷たい空気の中でも凜として、春の訪れを思わせました。この萬代舞は、昭和二十八年の第五十九回神宮式年遷宮を祝い作られた神宮独自のもの。歌詞は、遷宮諸祭の一つ、杵築祭において歌われる古い歌です。

天照らす 大宮処 かくしつつ 仕へまつらむ 萬代までに 萬代までに
昭和二十八年の神宮式年遷宮は本来、同二十四年に予定されていたところを戦後の復興を待って、四年遅れで執り行われました。そんな時代に、「萬代までに」と願う歌は心に響いたことでしょう。

二十四節気は、立春から雨水へ。暦は春の歩みを進めています。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○『おかげ横丁 ひなまつり』

女の子の成長を祝い、平安貴族のように優雅で美しく育つようにとの願いを込めて、美しい衣装を着せた人形を飾る「ひなまつり」。女性にとってはいくつになっても心弾む、年に一度の特別な日です。春の佳き日に、皆様で願いを込めてお祝いしましょう。

日時／2月18日(土)～3月3日(金) 10:00～17:00 (催しによって異なる)

場所／おかげ横丁一帯

● お雛さまに大変身【予約優先】

十二単風の衣装と東帯衣装を着てお雛様やお内裏様のように記念撮影していただきます。

日時／2月18日(土)～3月3日(金) 10:00～17:00

場所／伊勢路名産味の館2階「大黒ホール」

料金／1,000円(税込) ※レンタル衣装と着付け代含む。

● 旧家に伝わるお雛様とつるし雛飾り

旧家に代々伝わる雛人形と手作りのつるし雛を展示します。時代によって異なる様々な雛人形をお楽しみください。

日時／2月18日(土)～3月3日(金) 10:00～17:00

場所／伊勢路名産味の館2階「大黒ホール」

お問い合わせ／おかげ横丁総合案内「おみやげや」電話0596-23-8838

五十鈴塾

○『伊勢西国三十三所巡り総集編』

もう一つのお伊勢参り、伊勢鳥羽方面から桑名いなべ方面まで全部回られた千種先生にそれぞれのお寺の建物や仏像、ご住職のお人柄までいろいろとお伺いしてきました。神仏習合が当たり前の時代、伊勢神宮という圧倒的な存在を中心としてより大勢の人が幸せになれるように、宗教を越えての協力体制といえましょう。講座が長期間でしたので、その後に新しい事実や追加するべき歴史などが出てきました。今回は総集編として、全体を見渡した場合のひと味違った見方も加えながらの講座です。

と き／2月24日(金) 13:30～15:00

講師／千種 清美 (文筆家・皇學館大学非常勤講師)

参加費／一般 1,400円 会員 900円

場所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○『五十鈴茶屋節気菓子』

な はな
菜の花

温暖な気候の伊勢志摩地方では、年頭から菜の花が咲き始めます。白餡のそぼろを菜の花色に染めて粒餡を包み、春景色を表現しました。

うめ
梅ごよみ

寒い中にも、春の訪れを告げる梅の花の頃です。薄紅色のかるかんで白小豆を散らした羊羹を巻きました。あちらこちらで咲く、梅の花の情景が思い浮かべられます。

つばき もち
椿餅

「源氏物語」の中にもその名が見受けられる椿餅です。桂皮(けいひ:シナモン)が香る道明寺でこし餡を包み、椿の葉で挟みました。ほのかな香りをお楽しみください。